

2007年11月24日

小学校・中学校 社会科
高等学校 地歴科公民科
教科書編集担当者殿

琉球大学教育学部
社会科教育専修
教授 高嶋伸欣
准教授 山口剛史

沖縄県民大会等の加筆に関するお願い

拝啓

皆様にはお変わりなくご健勝のこととお喜び申し上げます。

本年3月末に2006年度教科書検定結果が公表されて以来、沖縄県内外から厳しい抗議の声と議論の渦が巻き起きていました「集団自決」記述改変問題は、焦点となった5社7冊の執筆者及び発行者の方々による「記述回復」から「記述是正」をめざす訂正申請によって、新しい事態を迎え、供給本にはそれなりに事実をよりの確に反映した記述が載るものと見込まれるに至りました。この半年余、沖縄でより望ましい社会科教育の定着をめざす職務にある立場から、一般県民の方々ともども事態の是正にとり組み続けてきた者としては、これも県内外の世論や教科書関係者の皆様方による陰ながらの支えがあったることと感謝しております。

そうした新たな事態が確実視できるに至った時に当たり、本日は改めて皆様方で担当の教科書の内容に関し、一つの要望を申し上げたく、突然ですが、文書を送らせて頂く次第です。

それは、本年9月29日の沖縄県民大会を、2008年4月から全国の小・中・高校で使用する供給本に何らかの形で加筆する訂正申請の手続きを、急ぎ実行して頂きたいということです。同県民大会は単に「集団自決」についての教科書記述に向けての沖縄県民による意思表示というだけではなく、政府・中央省庁という通常では一般人からはるか遠くに存在する巨大な権力とされているものに対して、「異議あり」との声を誰でも挙げていい社会、それが今の日本の民主主義であり、『主権在民』とはこのように行動することなのだとして沖縄県民に広く自信と勇気、誇りを与えただけでなく、全国の人々にも同じ意味づけでの強い刺激をもたらしたと私たちは10月以後今日まで県内外の反響などを通じて明確に認識しております。このことは、全国の小・中・高校生が学習するのにきわめて適切かつ必須の内容であるとも考えられます。そうした判断が今回の5社7冊の執筆者にお

いてもされていることは、すでに提出された訂正申請に、県民大会の記述が含まれていることから明らかです。[資料1]

新たな訂正申請としては、年表あるいは、本文頁の中の余白への加筆に限られるなど制約があると思われませんが、写真等の差し替え等を検討していただければなお幸いです。ちなみに、2005年10月の米兵による少女暴行に抗議した県民決起集会については、その写真等を掲載されている既存の教科書も少なくありません。中でも別紙[資料2]にありますように大阪書籍版「小学校社会科6年(下)」(2004年検定済)では、B5版見開2頁一面で集会、全様の写真を掲載しています。しかもその舞台近くに描かれた男の子のイラスト部分では「国の政治のあり方に対し、人々が集会を開いています。どうして、このような集会を開かなければならないのだろう」と問いかけています。今回の県民大会についても、こうした問いかけを教科書に記載されることを私たちは期待しております。

しかもお気づきと思いますが、この事例は小学校6年生用の教科書のものです。その上、これは「2000年度検定済」のもので、検定官はこうした写真と問いの掲載を不適切とはみなしていないことになります。

このように小学校6年生社会科公民分野の導入部分に95年の県民集会が重要な意味づけをもってすでに掲載されている点などを考慮され、2008年度用供給本に今回の県民大会を何らかの形で掲載していただけるようご尽力の程を強くお願いする次第です。

なお、この県民大会の参加者の数はまったくの虚飾であるかのようなキャンペーンが一部メディアや特定の文化人等によって展開されておりますが、それに関する私たちの考察を[資料3]として添えてありますので、参照いただければ幸いです。

以上取り急ぎ、社会科教育担当の立場から、要望させていただきました。

ちなみに、今回の沖縄での詳しい動き、報道を全国の教員や生徒が知る手がかりにするため、事態が一段落したところで、資料集等の作成・出版に関し県内外の関係者と協議をしております。その資料集でも、訂正・是正された記述を紹介し、それ自体をまた教材化したいと期待しておりますことを申し添えます。

最後になりましたが、今後も皆様とともによりよい教科書の作成と民主的な教育の定着をめざす所存であることを申し上げ、皆様のご清栄をお祈り致します。

敬具